

山口県立 総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center



Contents

vol. 37
2019.8

- 01 院長・副院長あいさつ
病院運営の改革を目指して
- 03 特集 | テレビ番組制作・放送
やまぐち医療最前線 新番組のご紹介
- 05 看護部通信
苦痛のスクリーニングを通して
痛みやつらさを緩和する
- 06 地域医療連携ニュース
地域包括ケアの推進に取り組んでいます
院長だより
- 07 インフォメーション
2019年度県民公開講座開催予定
やまぐち医療最前線 新番組の放送予定
きららサロン・きららサロンミニ講座のご紹介
- 別紙 外来診察担当医表

病院運営の改革を目指して

Aiming at reform of
hospital management.



In-Hospital Summit



院長・副院長あいさつ



院長
武藤 正彦

山口県立総合医療センターは、前身である「山口県立防府総合病院」として発足して、本年創立70周年の記念すべき年を迎えました。これを契機に、当院の業務執行の在り方を見直し、機動力のある働き易い病院作りを目指します。4名の副院長と2名の院長補佐がそれぞれの役割分担を遂行し、院長を支えていきます。

今号では、4名の副院長がそれぞれ担う役割についてご紹介させていただきます。本広報誌が、連携医療機関の皆さんにとって当院の取り組みをご理解いただけ一助になれば幸いです。



統括副院長
藤井 崇史

病院運営全般を担当しておりますが、特に入退院管理、DPCの適正化に努めています。また、診療材料、薬品等の適切な購入、適正使用にも目を向けています。さらに患者支援連携センターのセンター長として、地域医療連携の推進にも力を入れています。

今後は患者さんをご紹介いただくだけではなく、退院後の在宅医療の支援も行うために、地域の病院や診療所の先生方との連携をさらに強めていきたいと考えています。



副院長
中村 康彦

私の役割は、がん治療、防災管理、教育・研究、クリニカルパス管理、労務管理で、昨年来取り組んできました。

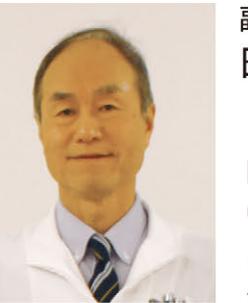
当院は地域がん診療連携拠点病院、県基幹災害拠点病院です。県央部のがん対策医療を推進する立場にあり、また大規模災害に備えた準備・訓練も求められます。一方院内では、医学研究的及び社会的倫理問題への対応、患者を中心としたクリニカルパスの適応拡大、医療者の過重労働に配慮した働き方改革で奮闘中です。



副院長
井上 康

本年4月より内科系副院長を務めております。従来から担当しておりました感染対策、栄養管理業務に加えて、内科系診療全般に関する課題を担当することになりました。

当院での高度専門医療に関しては一定のご評価をいただいておりますが、一方で、診察待ち時間の長さや駐車場不足など、ご批判も多く耳にします。地域の先生方との連携を今以上に密にして、当院の特徴を生かした医療を目指したいと思っています。



副院長
田中 浩

この度、副院長に就任いたしました田中でございます。当院には2010年に整形外科診療部長兼人工関節センター長として着任して以来、医師会の皆様をはじめ、たくさんの方々に大変お世話になっております。

副院長の役割として医療安全を担当することとなりました。この分野は医療を取り巻く環境の変化とともにますます重要性を増しています。当院だけではなく地域の医療機関の方々と一緒に取り組んでいく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

TV New Program

PICK UP

tys テレビ山口

3ch

山口県立総合医療センターでは、当院での取り組みを紹介するテレビ番組を制作・放送しています。今年度、新たに3番組を制作しましたのでご紹介します。テレビ放送に加え、右記のQRコードを読み込むと当院ホームページより視聴できます。ぜひ一度ご覧ください。

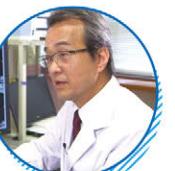


QRコードを読み込むと
スマートフォン
タブレットでも
視聴OK!



特集

当院での取り組みを紹介する
新番組のご紹介
「やまぐち医療最前線」



椎木人工関節センター長
(整形外科)

山田診療部長
(皮膚科)

中村副院長
(産婦人科)

出演：椎木栄一人工関節センター長（整形外科）

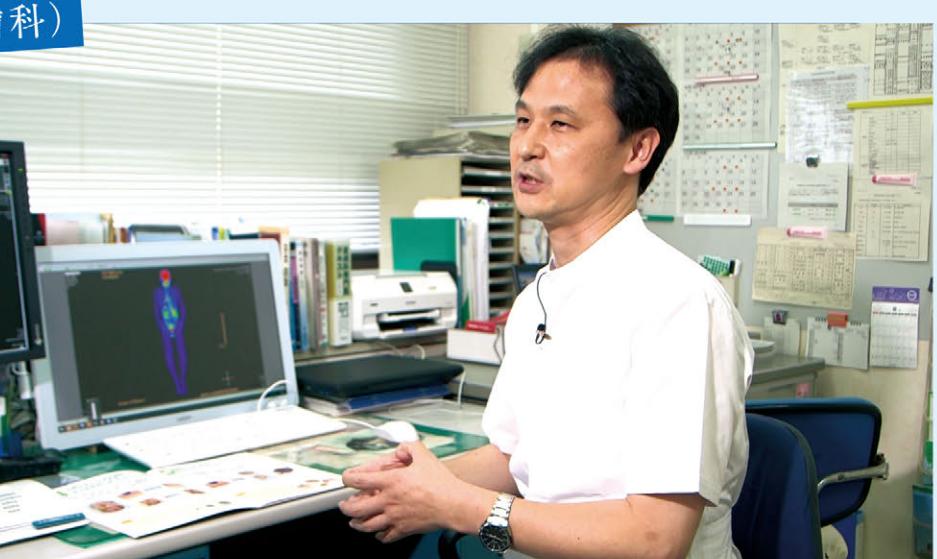


最新の人工膝関節について

8月3日(土) 18:55~19:00
8月7日(水) 16:50~16:56

超高齢社会を迎え、膝に痛みを抱える患者さんは年々増加しています。今回は、当院の整形外科専門医である椎木栄一人工関節センター長が、最新の人工膝関節について解説します。人工膝関節の手術は、医療技術の発達により年々進化しています。当院では、コンピュータが術者に人工膝関節の最適な取り付け位置を示すナビゲーションシステムや、CTやMRI画像をもとに手術機器を患者さん一人ひとりに合わせオーダーメイドで作成するなど、先進的な技術を積極的に導入しています。手術後もリハビリテーション科との連携をしっかりと行い、少しでも早く日常生活が送れるよう、サポート体制を整えています。健康的な生活のためには、痛みや変形のない膝関節であることはとても重要です。県民のみなさまに、このような手術が山口県でも受けられることを知っていただける機会になれば幸いです。

出演：山田隆弘診療部長（皮膚科）



ほくろ癌（メラノーマ）に対する新しい治療

9月7日(土) 18:55~19:00
9月11日(水) 16:50~16:56

悪性黒色腫・メラノーマについて、当院の皮膚科専門医、山田隆弘診療部長が解説します。

メラノーマとは、メラニン色素を作り出すメラノサイトががん化して発生する皮膚がんの一種で、見た目がほくろに似ている場合も多く、「ほくろ癌」とも呼ばれています。早期発見し切除すれば再発するまでの期間が長いという報告もありますが、再発が多いのがメラノーマの特徴もあり、治療の難しい悪性腫瘍とされていました。しかし近年、病気や薬の研究が進み、その様子は大きく変わってきており、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的の薬など、治療の選択肢が増えつつあります。メラノーマなのか、ほくろなのか気になる方は、ぜひ一度、専門の医療機関へご相談ください。また、以前治療を完了されている方でも定期的な検査をお勧めします。

出演：中村康彦副院長（産婦人科）



山口県がん・生殖医療ネットワーク YOF-net設立

10月5日(土) 18:55~19:00
10月9日(水) 16:50~16:56

当院の中村康彦副院長が会長を務める、「山口県がん・生殖医療ネットワーク」通称YOF-net（ヨフネット）をご紹介します。YOF-netは、15歳から39歳のAYA世代と呼ばれる世代のがん患者さんが、抗がん剤治療のために、将来妊娠出産ができなくなるのを防ぐため、山口県全体で連携して取り組むことを目的に、昨年11月に設立されました。若年世代のがん治療は一刻を争う場合が多く、妊娠能（にんようのう）に対する副作用や温存療法について、十分な説明や理解のないまま治療が開始される事例があります。このようなケースを防ぐため、がん治療を行う医療機関に対し、卵子や精子・卵巣組織などの凍結保存が可能な施設の情報提供と迅速な紹介をYOF-netが行います。患者さんに寄り添い、きめ細やかでスピーディーな対応を目指すYOF-netの取り組みをご覧ください。

看護部 Nursing department communication 通信+

苦痛の スクリーニングを 通して痛みや つらさを緩和する

看護部 教育主任 がん看護専門看護師 山本 知美



厚生労働省は「がんと診断された時からの緩和ケア」を推進していますが、「緩和ケアは終末期に行われるもの」という認識が根強く存在しています。診断時から治療と同時に緩和ケアを提供するための体制整備の1つに、苦痛のスクリーニングがあります。当院でも以前から実施していましたが、限られた診療科・部署での実施で、本来の目的を達成できずにいました。また、がん以外の循環器や呼吸器疾患等の患者さんにも緩和ケアが必要とされているため、対象者を小児科・産科を除く全入院患者に拡大し、2018年6月から再始動しました。

2018年6月から2019年3月までの期間に、延べ3,779名の患者さん・ご家族に苦痛のスクリー

ニングを実施しました。約4割の方が心身の苦痛を訴え、「こころのつらさ」については、「ある」と答えた方の半数以上が「中等度以上」という結果でした。今回の調査では、入院時のスクリーニングという性質上、「痛みに耐えられるのか」「本当に無事に終えられるのか」など、治療への不安が多くを占めました。その思いを傾聴しながら、不足している情報の提供や、医師の説明内容を理解できるよう支援しています。また、身体的な苦痛については、症状の原因を分析して、薬物的・非薬物的対応を再検討しています。疾患や病期に関係なく、緩和ケアを必要としている方は多く、必要な方に適切なケアを届けられるよう、この活動を継続していくと考えています。

地域医療連携ニュース

地域包括ケアの推進に取り組んでいます

患者支援連携センターでは、入院される患者さんの医療的・社会的問題を早期に把握し、円滑な入院生活の後、スムーズな退院に繋がるように支援をしています。当院の2018年度の退院患者総数は10,467名で、そのうち在宅復帰率は92.9%でした。

下記の表は、当院の退院調整部門が在宅等への退院調整を行った件数ですが、年々増加しています。これは、急性期病院であっても地域包括ケアを推進するために、医療と介護の連携強化に取り組んでいる結果といえます。

今後も、患者さんとそのご家族の方々が安心して退院に向けた準備ができるように、院内外の関係する多職種の方々と情報を共有し、さらなる支援に努めてまいります。



医療と介護のさらなる連携強化を目指し「顔の見える」関係づくりに取り組んでいます。

表：退院調整部門が介入した在宅等退院調整件数

自宅等退院調整先	2016年度	2017年度	2018年度
自宅退院(介護・訪問看護等介入)	172	179	262
特養、老健、障害者支援施設等	29	22	22
有料・サ高住、グループホーム	23	25	47
合 計	224	226	331

院長だより✉

第五代院長の江里健輔先生が、この度の春の叙勲で瑞宝重光章を受章されました。私たち同じ病院で働く職員一同にとても晴れの受章を、大変おめでたいことだと思っています。わが国におけるこれからの人間性豊かな地域社会の創出に、県民の皆さまの健康の維持増進の視点から、山口県立総合医療センターがどのような形で貢献していくべきなのか、構想する毎日です。



武藤 正彦



総合医療センターのさまざまなイベントをお伝えします。

Information



2019年度県民公開講座開催予定表

受講料無料
(事前申込み不要)

日 時	テ マ	講 師	場 所
10月19日(土)	乳がん	乳腺科 野島 真治 医師	山口市民会館 小ホール
12月 7日(土)	膝痛	整形外科 椎木 栄一 医師	YIC Studio(新山口駅前) 2階講堂
2月 1日(土)	消化器がん	外 科 須藤 隆一郎 医師	防府市アスピラート 3階音楽ホール

※講演時間14:00～15:00 [開場13:00] (各回共通)

次回講座 開催日が **変更になりました!** (変更前) 10月22日(火・祝) ▶ (変更後) **10月19日(土)**



やまぐち医療最前線 / 新番組放送予定 (tys テレビ山口)

放送日時	放送内容	出演
8月 3日(土) 18:55～19:00	最新の人工膝関節について	整形外科 椎木 栄一 医師
8月 7日(水) 16:50～16:56		
9月 7日(土) 18:55～19:00	ほくろ癌(メラノーマ)に対する新しい治療	皮膚科 山田 隆弘 医師
9月11日(水) 16:50～16:56		
10月 5日(土) 18:55～19:00	山口県がん・生殖医療ネットワーク YOF-net設立	産婦人科 中村 康彦 医師
10月 9日(水) 16:50～16:56		

◎きららサロン

がん患者さん、ご家族のためのサロンです。ボランティアスタッフが色々な話を聴きします。書籍やインターネットでがんに関する情報を集めることができます。
当院に通院中でなくても利用可能です。

日 時: 毎週火・金曜日 10:30～15:00
場 所: 当院外来棟2階 会議室前コーナー

◎きららサロンミニ講座

がんと向き合う日々のためのミニ講座
テーマ 「リンパ浮腫について」
講 師 / 緩和ケア認定看護師 小川 佐知子

日 時: 11月12日(火)13:00～14:00
場 所: 当院外来棟2階 第1会議室

○編集後記

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催まで、残り1年をきりました。運よく観戦チケットが当選し、世界最大のスポーツの祭典に参加することができそうですので、今から楽しみにしています。チケットの申し込みはインターネット上で行われたのですが、そのサイトは情報を分かりやすく伝える工夫が随所に施されていました。「老若男女問わず、さまざまな方に配慮した伝え方」を意識して、広報誌制作に努めていきたいと思います。(企画調整室 H.A)



地方独立行政法人
山口県立病院機構

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する

山口県立総合医療センター

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210 URL <https://www.ymghp.jp/>